

2023年

リカバリーサポート・ネットワーク 電話相談事業概要報告

認定特定非営利活動法人
リカバリーサポートネットワーク
代表理事 西村直之

リカバリーサポート・ネットワーク（RSN）は、電話相談事業を開始して満18年となった。

2023年は新型コロナウイルス感染症の流行も一段落し、5月以降に相談員の増員を行い、RSNの相談体制の強化に努めた。認定特定非営利活動法人（認定NPO法人）ワンデポトとの共催事業である本人・家族向けの対面相談事業は、オンラインでの個別相談として実施した。他に、遊技産業のギャンブル等依存症啓発週間取り組みの企画・コンテンツ作成協力、パチンコ・パチスロの遊び方・安全度の自己診断アプリ「パーラーシキル&ハイド」無料配布の継続、ホール従業員向け「のめり込み防止・啓発ポスター」配布、RSN発行のホール設置用リーフレット・パンフレットの改定とダウンロード版の無償提供、パチンコホールスタッフ向けe・ラーニング「パチンコ・パチスロ依存問題基礎講座」のコンテンツ拡充と無償提供、RSNニューズレター「さくら通信」による広報・啓発、公益財団法人日工組社会安全研究財団パチンコ・パチスロ遊技障害研究会における調査・研究協

力、「依存の問題の支援に携わる人たちの勉強会」の開催協力などを行った。

電話相談事業の成果の概要

2023年1年間のRSN電話相談事業の成果についての概要報告を行う。以下、ここで報告する本人データは、パチンコ・パチスロプレイヤーのなかでも問題を自覚し、かつ電話相談するという行動を起こした人たちから聴き取った内容である。RSNの電話相談の利用者がパチンコ・パチスロプレイヤーを代表しているわけではなく、電話相談から得られる情報・データは学術調査用にデザインされたものでもない。そのため、RSN電話相談事業に関する情報・データはRSNの電話相談利用者に関するものに限定されており、パチンコ・パチスロの問題を抱える人たちの全体像を現しているわけではないことを強調しておきたい。

2023年の1年間にRSNで受けた電話相談は、3216件であった（RSN支援室対応、夜間相

談含む）。1年間の総件数3216件は、前年2022年の2937件より279件多かった（図1）。1ヵ月あたりの平均件数は268件であった。2006年4月の開設からの累計件数は4万9472件となった。パチンコ・パチスロプレイヤーがCOVID・19感染症の流行前の日常生活に戻りつつあることと、本年5月からのRSN相談部の人員増等の相談体制の強化により、対応件数が増加したことが相談件数の増加につながっていると推測している。2023年RSN電話相談の総件数3216件のうち、RSN支援室で受けた相談は322件（10%）であった。

電話相談を通過時間によって10分ごとに分類すると、10分未満の短いものが1258件（39%）で最多であった。次いで10分～20分未満の772件（24%）、20分～30分未満の595件（19%）となっており、30分未満の電話が82%を占めた。電話相談を通過回数ごとに分類すると、RSNへの電話が初めての相談（初回相談）が1025件（32%）、2回以上の複数回の相談（複数回相談）が1801件

（56%）、主にRSN支援室での対応となる間違い・無言・問い合わせの電話が390件（12%）であった。2022年と比べると、初回相談は194件減少（前年比84%）し、複数回相談は528件増加（前年比141%）した。

初回相談者データの解析（全体）

データの詳細解析は解析のバイアスを少なくするため、初回相談者のみを対象としており、これ以降のデータは初回相談1025件のみの解析結果となっている。

相談者の対象者との関係性の内訳は、初回相談1025件のうち、問題を感じた本人が902件（88%）、家族・友人が121件（12%）、パチンコホール（以下、ホール）の関係者、医療機関や相談・支援機関などで援助・支援する援助者からは、2023年はそれぞれ1件（0%）であった。電話相談開始以来、本人からの相談が8割以上となっている（表1）。

相談者の性別は、男性が791件（77%）、女性が230件（22%）、その他2件（0%）、不明・拒否2件（0%）であった。性の多様性の



視点から、男女で性別分類を行うことは時代的には適切ではないと RSN では考えているが、国等の他の統計データとの比較を行うために、あくまで参考としてこの形で記録を継続している。また、相談時での性別判断は、相談員の主観によるものである。

初回相談における相談者の年齢の分布を年代ごとに見ると、件数の多かった順に、20代 281件(27%)、30代 232件(23%)、40代 211件(21%)、50代 128件(12%)、60代 69件(7%)、10代 48件(5%)、70代 46件(4%)、80代 9件(1%)、90代以上 1件(0%)であった。20代、30代の相談者が、全体の半数を占めていること、相談者の年齢が10代から90代まで幅広く分布していることは、RSNの電話相談の特徴であると考えている。

相談者が RSN の電話相談に至った経路は、ホール内に貼付されたポスター 1539件(53%)、インターネット 233件(23%)の順に多かった(表2)。RSNの電話相談を利用する以前に他の機関に相談した経験が「ある」と回答した相談の件数は171件(17%)、「ない」と回答した件数は698件(68%)、不明あるいは回答することを拒否した件数は156件(15%)であった。約7割の相談者が、ばちんこに関連して生じた問題についての初めての相談先としてRSNの電話相談を選んでいる。

た。相談経験が「ある」と回答した相談のうち、RSN以前の相談先として最も多く挙げられていたのは医療機関であった。初回相談1025件のうち109件(複数回答を含む)が、精神科や心療内科などの医療機関での診療あるいは治療を経てからRSNに電話相談をしていた。

■初回相談者データの解析(本人)

初回相談者のうち問題を感じた本人からの相談は902件(88%)であり、問題のある本人に絞って解析を行うと、男性752件(83%)、女性147件(16%)であった。(以下、初回相談者のうち問題を感じた本人のみを解析)。多い順に20代266件(29%)、30代210件(23%)、40代184件(20%)、50代100件(11%)、60代62件(7%)などであった。20代が最多で、30代、40代と、年代が上がるにつれて件数と構成比率は下がっていた。RSNへの電話相談以前に別の機関・団体に相談した経験が「ある」と回答したのは136件(15%)、「ない」と回答したのは621件(69%)であった。電話相談の結果(転帰)として最も多かったのは、他機関・他団体の紹介を行わずに相談を終える「紹介先なし」575件(64%)であった(複数回答を含む)。「紹介先なし」に次いで、医療機関(主治医戻し含む)133件(15%)の紹介が多かった。

就業形態は、正社員・契約社員などの「常勤」が361件(45%)で最も多く、次いで、派遣社員・アルバイト・パート・就労継続支援利用者などの「非常勤」が165件(21%)であった。常勤、非常勤、オナーとして、なんらかの安定的な収入がある相談者は563件(70%)であった。就業形態が「学生」「家事」「休職中」「就活中」「その他」の状態である相談者は、男性では179件(27%)であるのに対し、女性は58件(44%)となっていた。収入が不安定であるにも関わらずばちんこの問題がある人の

場合、金銭面の問題が深刻になりやすいことが推測される。収入が全くない状態の人からの相談は26件、生活保護費であると回答した相談は49件であった。ばちんこ以外の問題の有無について聴き取ることができた相談は693件(77%)であり、ばちんこ以外の問題の併存が286件(32%)であった。相談者がのめり込んでいる(あるいは、依存している)と感じているばちんこの種別(パチンコ、パチスロ、その両方)について聴き取ることができた相談は808件

図1 年次別相談件数

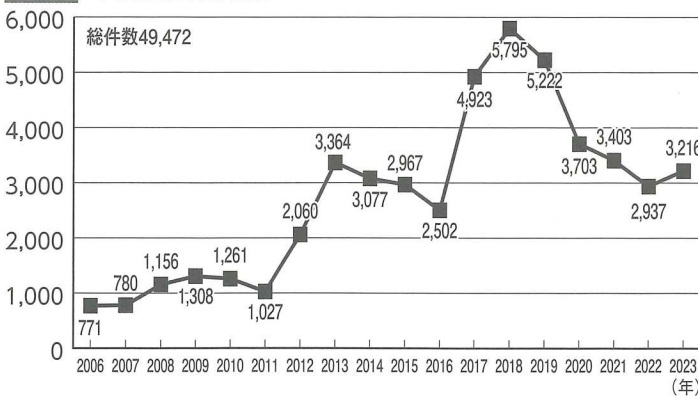


表1 相談者の対象者との関係性

	2022年	2023年
本人	1051(86)	902(88)
家族・友人	168(14)	121(12)
ホール関係者	0(0)	1(0)
援助者	0(0)	1(0)
計	1219(100)	1025(100)

(初回相談者のみ。表カッコ内はパーセント)



(90%)であり、相談者がのめり込んでいる種別は、両方334件(41%)が最も多く、次いでパチンコ310件(38%)、パチスロ164件(20%)であった(表3)。

2022年と比較して、両方、パチスロの割合が増加し、パチンコの割合が減少した。男女別にのめり込んでいる種別の構成比を見ると、男性は両方が305件(45%)と最も高く、パチンコ232件(35%)、パチスロ135件(20%)の順となっていた。女性ではパチンコが75件(56%)で最も高く、パチスロ、両方がともに29件(22%)の順であった。

ばちんこで遊ぶ頻度について聴き取ることができた相談は702件(78%)あり、「ばちんこで遊ぶ頻度」で最も多かったのは「週4回以上」366件(52%)、次いで「週2〜3回」235件(33%)であった。「週1回」以上、ばちんこで遊ぶ相談者は668件(95%)であり、本人のほとんどが、週1回以上の頻度であった。

1ヵ月あたりの負け額(ばちんこで遊んだ収支のマイナス額)のおおよその平均金額について聴き取ることができた相談は645件(72%)であり、1ヵ月の金額が「5〜10万円未満」191件(30%)が最も多く、次いで「10〜20万円未満」144件(22%)、「2〜5万円未満」142件(22%)、「20万円以上」87件(13%)、金額が10万円以上の相談は231件(36%)であった。

表2 相談者が相談に至った経路

	2022年	2023年
ホール内ポスター	569(47)	539(53)
ホール折込チラシ	34(3)	26(2)
ホール配布物	64(5)	39(4)
ホール関係者	15(1)	26(3)
ホール貼付ステッカー	8(1)	2(0)
ATM啓発メッセージ	8(1)	3(0)
WEBアプリ	1(0)	2(0)
インターネット	335(28)	233(23)
家族・友人・知人	27(2)	30(3)
雑誌	4(0)	3(0)
新聞	0(0)	2(0)
他の相談機関	11(1)	12(1)
その他	5(0)	10(1)
不明・拒否	138(11)	98(10)
計	1219(100)	1025(100)

(初回相談者のみ、表カッコ内はパーセント)

表3 のめり込んでいる種別

	2022年	2023年
パチンコ	414(46)	310(39)
パチスロ	155(17)	164(20)
両方	330(37)	334(41)
計	899(100)	808(100)

(初回・本人相談者のみ、不明除く。表カッコ内はパーセント)

ばちんこ以外のギャンブリング経験の有無について聴き取ることができた相談は745件(83%)であり、有無について聴き取ることができた相談745件のうち、ばちんこ以外のギャンブリングの経験について「なし(経験がない)」と回答したのは571件(77%)、「あり(経験がある)」は174件(23%)であった。約8割は、ばちんこの経験がなく、他のギャンブリングの経験はなかった。

相談時点における借金の有無について聴き取ることができた相談は、785件(87%)であり、借金がある人からの相談は410件(52%)で、ない人からの相談は375件(48%)であった。現在の借金の有無は、本人が相談行動をとる決断とは、直接的な関係はなさそうである。相談に至るまでの

いずれかの時点における債務整理経験の有無について聴き取ることができた相談は728件(81%)であり、債務整理経験がある人からの相談は175件(24%)、債務整理経験がない人からの相談は553件(76%)であった。7割以上の相談者は、債務整理経験がなかった。

「SOGS簡易評価版」の7つの設問に対して有効な回答を得ることができた相談は45件(5%)であり、「はい」の回答率が高かったのは、設問2(96%、問題の自覚/指摘)、設問1(82%、取戻し/深追い)、設問5(58%、家計からの借金)の3つの設問であった。有効回答を得た相談45件の平均点数は3・80点であった。「PPDS短縮版」(パチンコ・パチスロ遊技障害尺度)の6項目に対して有効な

回答を得ることのできた相談は84件(9%)であり、合計得点の分布の平均は17・60点、カットオフ値である14点以上の人数は71人(85%)であった。

**RSN対面相談・ワンデー
ポート家族相談**

RSN対面相談会(オンライン)の対応件数は、11件であった。本人相談が7件、家族相談が4件であった。事業開始から2023年末までの総件数は191件となった。申し込みがあったものの相談には至らずキャンセルとなったケースが8件あった。認定NPO法人ワンデーポートの家族相談(RSN共催事業・神奈川県横浜市瀬谷区のワンデーポート会場)では、年間で67件の個別相談を受けた。